

沼垂のまちなみ ⑥古町エリア  
沼垂古町境界 古信濃川と置き返り地

沼垂町は現在地に移転した後も町の西側を信濃川に浸食されました。浸食が止まり、陸地が増え始めたのは**延享年間(1744~48)頃**からです。信濃川中州と沼垂町の間の流路は次第に狭まり、**古信濃川**と呼ばれました(図C)。



このように、いったん川に浸食された土地が陸地となって再び利用された土地を「**置き返り地**」といいます。栗ノ木川以西には、置き返り地が再び町となったところがありました。宝暦3年(1753)には**元古二ノ町**だった辺りに「**新片原町**」という町名が、明和6年(1769)の絵図には**元古三ノ町**だった辺りに「**新地**」という地名が現れますが、これらは現在の沼垂西1・2丁目と3丁目の一部にまたがる場所で、置き返り地と考えられます(図B)。

現在の「**ピア方代**」と「**朱鷺メッセ**」の場所が、古信濃川の河口だった場所ニャ。地図で見てニャー

古信濃川の出口



万国橋(栗ノ木川出口跡)



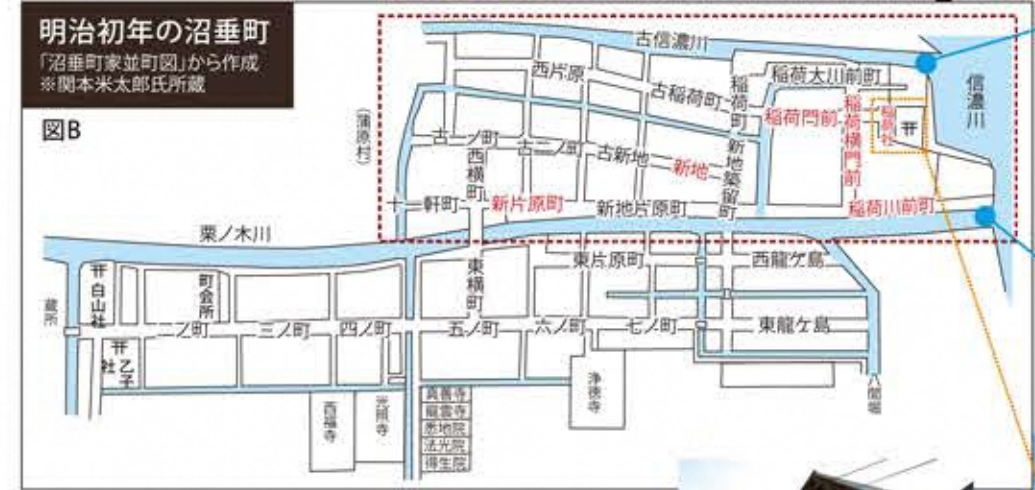
湊稻荷神社



沼垂の**湊稻荷神社**は、浸食のために通船川(旧阿賀野川)対岸の王瀬に移転していましたが、明和6年(1769)、古四ノ町があった所の下手の**置き返り地**に戻ってきます。文化年間(1804~18)頃には神社の周辺も市街地になり、幕末までに**稲荷門前**、**稲荷横門前**、**稲荷川前町**など神社名の付いた多くの町が出来ました(図B)。



**16** 能登屋小路(のどやこうじ):ここに、能登屋という大きな廻船問屋があったことから、この名が付いたと思われる。



明治初年の沼垂町  
「沼垂町家並町図」から作成  
※関本米太郎氏所蔵  
図B



**17** 清左衛門小路(せいざえもんこうじ):大正期の地図に清左衛門小路と記されている。この小路の近くに住んでいた人の名前由来と思われる。



**19** 久八小路(きゅうはちろうじ):明治初めの絵図には、小路の角に磯島久八の屋敷が記されていることから、その名前が名の由来と思われる。



祭りニャ祭りニャ  
血がさわく〜



**20** 由兵衛小路(よいべいこうじ):大正期の地図に由兵衛小路と記されている。この小路の近くに住んでいた人の名前由来と思われる。



**22** 百川小路(ももかわこうじ):明治初めの絵図には、小路の角に百川徳蔵の屋敷が記されていることから、その姓が名の由来と思われる。



小路の向こうに舟を模した新潟日報社屋「メディアシップ」。現代の北前船ですかニャ。



ぬったり  
古町通りの  
まちなみ



**21** 吉助小路(きちすけこうじ):大正期の地図に吉助小路と記されている。この小路の近くに住んでいた人の名前由来と思われる。



**23** 五助小路(ごすけこうじ):大正期の地図に五助小路と記されている。この小路の近くに住んでいた人の名前由来と思われる。



**26** 御行小路(おぎょうこうじ):この小路の西側に面して、明治初年まで海蔵寺があった。行者(山伏)が修行に逢う寺だったことから、この名で呼ばれたものと思われる。明治初めの絵図には行小路と記されている。



**24** 船蔵小路(ふなくらこうじ):江戸時代、新発田藩が船大工十一人を移住させた町であることから、これは十一軒町といった。船大工が舟を造る作業所を船蔵といふことから、この名の由来になったものと思われる。



新潟市東地区総合庁舎  
御手洗瀬川跡に沿う位置に建てています。



御手洗瀬跡の碑



古信濃川跡の碑



ほんぽーと新潟市立中央図書館  
古信濃川跡に沿う位置に建てています。



古信濃川跡の碑



**25** 三軒町(さんけんちょう):かつての蒲原村の北の玄関口で、昔から三軒の家があったので、その道も三軒町と呼ばれたものと思われる。

